

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.187 2013.7.1



戦争と平和展 特攻兵が飛び立つとき—松本から知覧へ—

会期 2013年 7月6日(土)▶8月25日(日) 会場 松本市立博物館

平成23年の国連軍縮会議in松本をきっかけに、松本市立博物館のまると博物館連携事業としてはじまった戦争と平和展。今夏は、松本市立博物館と重要文化財旧開智学校校舎、松本市歴史の里の3館で開催します。

各館が所蔵する資料の特色を活かして、それぞれの視点で戦争の悲惨さと平和の尊さを考える展示を行います。



知覧特攻平和会館 (提供: 知覧特攻平和会館)

浅間温泉に滞在していた特攻隊員(田澤澄枝氏蔵)

もくじ

誌上博物館 ◇ 「戦争と平和展 特攻兵が飛び立つとき—松本から知覧へ—」 開催にあたって	2-3
博物館トピックス ◇ 松本まると博物館連携企画展「北杜夫と松本」	4-5
博物館トピックス ◇ 松本まると博物館連携企画 まつもとの七夕2013	6

誌上博物館 ◇ 夏期特別展「源寿院の古時計」	7
ガイドコーナーはんでんぼく	7
各種事業紹介	8

戦争と平和展 特攻兵が飛び立つとき —松本から 知覧へ— 開催にあたって

1 戦争と平和展

平成23年度に開催された国連軍縮会議in松本を契機に、松本市立博物館では戦争の悲惨さと平和の尊さを考える「戦争と平和展」を毎夏開催しています。昨年は、飛行機の機体装備のため陸軍松本飛行場に飛来していた特別攻撃隊(特攻隊)の隊員と東京都世田谷区の疎開児童たちとの交流を紹介して大きな反響をよびました。

そこで今回は、松本に滞在していた特攻隊員に加えて、松本で育った特攻隊員、松本で学んだ特攻隊員にも焦点をあてながら、彼らが飛び立った先の知覧(南九州市)など九州における特攻隊の活動、戦時下の松本の状況などを多角的に紹介します。

2 松本に滞在した特攻隊

太平洋戦争末期に行われた特攻隊は、爆弾を搭載した軍用機や潜水艇を敵の艦船等に体当たりして自爆する、搭乗員の戦死を前提とする部隊です。昭和20年(1945)になって沖縄周辺に侵攻した連合国の艦隊に対し、日本は特攻隊を編成し、九州・台湾の飛行場から航空特攻を行ったり、戦艦大和に代表される艦艇による水上特攻などが行われました。

昭和20年2月10日、満州国の首都新京で、特攻隊4隊が編成されました。このうち、誠第31飛行隊(武揚隊)と誠第32飛行隊(武剋隊)の2隊(各15名)は、朝鮮半島の平壤、大邱、太刀洗飛行場(福岡県)、各務原飛行場(岐阜県)などを經由して、2月下旬に陸軍松本飛行場に到着しました。そして、戦闘機の機体を特別攻撃用に装備するまでの約1か月間を松本で滞在していました。また、この2隊のほか、陸軍空第541部隊の関係者が松本や塩尻市内に滞在していたことがわかっています。

それではなぜ、戦争末期の松本に九州から特攻に飛び立つはずの部隊が滞在していたのでしょうか。

3 太平洋戦争末期の松本

明治41年(1908)から陸軍歩兵第50連隊が駐屯する軍都でもあった松本ですが、太平洋戦争が激化し、昭和17年から本土が空襲されるようになると軍需工場の疎開がはじまります。また、陸軍省の命令により、昭和18年10月から陸軍松本飛行場の建設が始まります。

昭和19年12月7日に発生したマグニチュード7.9の東南海大地震と、13日から始まった連合国軍の

空襲で三菱重工業名古屋発動機製作所が壊滅的な損害を被ります。そして、翌20年2月に名古屋航空機製作所の技術部の疎開がはじまり、その後は松本市内に組立工場や部品工場も疎開しました。また、昭和19年8月からは学童疎開が始まり、松本市内では約4千4百人の東京都世田谷区の児童を受け入れています。

この時期の松本周辺にタイムスリップしたならば、現在の総合球技場アルウィン一帯にあった陸軍松本飛行場は整備中にもかかわらず戦闘機や練習機が離発着し、中山や里山辺地区には大きな地下・半地下の軍事工場が建てられ、弘法山古墳の上には高射砲が据えられ松本の上空を監視している光景がみられたはずです。さらに、市内に目を向ければ、徴兵制度や学徒出陣により平時より人口が減っている一方、疎開児童や軍関係者、工場疎開関係者などの外来の人が大勢滞在していたのです。こうした当時の松本のすがたは戦後に生まれ現代に生きる人にはおそらく想像もつかないのではないのでしょうか。

本展では、特攻隊員をキーワードに、昨年に引き続き松本に滞在していた特攻隊を紹介するほか、松本に育ったり、松本で学んだ特攻隊員を紹介します。また、写真に見られるように市内の軍事工場で学徒動員によって製作された飛行機の木製燃料タンク、当時の写真資料など、松本市立博物館や旧制高等学校記念館、重要文化財旧開智学校校舎が所蔵する資料から戦時下の松本を紹介します。



飛行機の木製燃料タンク(松本市立博物館蔵)

4 九州に向かった特攻隊

昭和20年3月18日に浅間温泉に滞在していた武剋隊の先発隊が松本を発ち、各務原飛行場経由で



知覧特攻平和会館の遺影コーナー（知覧特攻平和会館提供）

にゅうた ぼる

新田原飛行場(宮崎県)に向かいます。それ以降、武剋隊・武揚隊は相次いで松本を去り、九州に向かいます。最終的にこの2隊は八塊(台湾)、新田原(宮崎県)、知覧、沖縄などから出撃することになります。

この時期の九州には沖縄へ特別攻撃に向かうための飛行場が多くあり、陸軍の特攻機が出撃した飛行場は九州島だけでも9ヶ所ありました。このうち、沖縄に近く最も多くの特攻機が出撃したのが知覧飛行場です。

昭和16年12月、鹿児島市の南に隣接する知覧町(当時)に大刀洗陸軍飛行学校(福岡県)の知覧分教所が開設しました。飛行士養成のための教育施設として出発した知覧飛行場は、昭和20年からは実戦部隊が駐留する特攻基地として、多くの特攻隊員が出撃し、多くの若者が戦死しました。

現在、知覧特攻基地のあったこの地に知覧特攻平和会館が建てられ、特攻隊員の遺品や関係資料が展示され、毎年大勢のひとたちが訪れています。

本展では、知覧特攻平和会館の協力により、太平洋戦争末期に特攻隊が編成された経緯や歴史的背景や、特別攻撃の概要などを解説パネルで紹介します。また、隣接するミュージアム知覧より、知覧の人たちが特攻隊員を慰問した際に着用した衣装なども展示します。武剋隊・武揚隊の松本滞在は、わずか1か月ほどでしたが、この展示を通して特攻隊の全体像に想いをはせていただけたらと思います。

5 特攻隊の最後

昭和20年4月1日に連合国軍は沖縄本島に上陸し

ました。特別攻撃は3月26日から始まり、6月下旬まで出撃が繰り返されました。この間、武剋隊の廣森達郎隊長以下9名は沖縄から出撃し3月27日に亡くなります。また、残りの金尚弼少尉以下6名は新田原飛行場から出撃して4月3日に戦死しています。また、武揚隊の長谷部良平伍長は知覧飛行場から出撃し4月22日に、山本薫隊長以下6名は5月13日から19日にかけて台湾の八塊飛行場から出撃し、沖縄周辺の洋上で亡くなっています。

沖縄戦では、連合国軍が沖縄本島に上陸し戦闘が激化した結果、戦死者が約20万人に達しました。このうち沖縄出身者を除く日本軍戦死者は6万6千人、連合国軍の戦死者は1万3千人、一般民間人の戦死者は9万4千人といわれています。第2次世界大戦では、航続距離の長い航空機や戦艦・潜水艦、長距離弾道の兵器などが開発された結果、民間人が戦争に巻き込まれて命を落とすことが格段に増えました。

平成23年(2011)年2月現在、確認されている陸・海軍の特攻による戦死者の総計は、6千名を超えるとされています(『特別攻撃隊全史 追補版』特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会 2011)。

本展では、松本から九州に向かった特攻隊員が残した遺墨や写真のほかに、当時の報道記事や市民の記録などを多角的に紹介します。家族や国を守るために死を覚悟して出撃した特攻隊員の一人ひとり、それ自体ひとつの歴史であり物語ですが、特攻を巨視的にみることにより、なぜ戦争がはじまり、なぜ特攻を行わなければならなかったのかなど、平和を守ることの大切さに少しでも思いを馳せることも大切ではないでしょうか。

なお、平和の連鎖反応が広がるよう本年もまるごと博物館連携事業として分館2館でも平和を考える特別展を開催します。

また、知覧がある南九州市に隣接する鹿児島市と松本市が、昨年9月16日に文化・観光交流協定を締結したことを記念して、都市間交流事業「鹿児島展 薩摩・鹿児島と松本を結ぶもの」を同時開催します。

(課長補佐 学芸員／関沢聡)

【参考文献】

松本市 『松本市史 第二巻 歴史編Ⅲ 近代』 1995

きむらけん 『もうひとつの戦史 鉛筆部隊と特攻隊』 2012 彩流社

川村 修 「旧陸軍松本飛行場から出撃した特攻隊」『松本市史研究 第23号』 2013

戦争と平和展 特攻兵が飛び立つとき—松本から知覧へ—
7月6日㊦～8月25日㊦

松本まると博物館連携企画展「北杜夫と松本」

はじめに

ユーモアの中に文明批評も含んだ「どくとるマンボウ」シリーズや、大河小説『楡家の人びと』などの作者として知られ、今も多くのファンを持つ北杜夫は、平成23年10月に亡くなりました。

北は、旧制高校と信州の豊かな自然に憧れて松本高等学校に入学し、戦中・戦後の食糧も物資もない大変な時代を、この松本の地で過ごしました。学生生活が与えた影響は大きく、『どくとるマンボウ青春記』をはじめ、さまざまな作品で松本での出来ごとを取り上げています。



松本高校入学当時の北杜夫
西穂高岳にて(昭和20年7月)

「(松本高校での生活がなければ)ひょっとすると文学と縁のない生活をしていたかもしれないと考えることがある」と述べたように、学友や恩師との交流を通じ、貧しくとも心豊かな青春時代を過ごした松本での3年間は、その後の作家

「北杜夫」誕生にとって欠かすことの出来ない日々でした。

卒業後も、恩師や友人と酌み交わすため、また美ヶ原や上高地など雄大な信州の自然や昆虫と出会うために、何度となく松本を訪れるなど、信州・松本を第二の故郷のように生涯を通じて思い、愛していました。亡くなった年の春に上高地を訪れ、秋にも上高地を訪れる予定で大変楽しみにしていたとお聞きするにつけ、突然の逝去は残念でなりません。

そんな松本と大変縁の深かった北のひととなりや、松本との関わりを紹介するため、松本市立博物館の分館3館が連携し、企画展「北杜夫と松本」を開催します。

「多面体」といわれる北の魅力を、旧制高等学校記念館、山と自然博物館、窪田空穂記念館の3館が松本でのエピソードを交え、それぞれのテーマでご紹介しますので、ぜひご覧ください。

※関連事業は8ページの「はんでんぼく」コーナーでご案内しています。

(旧制高等学校記念館 館長／藤波由紀夫)

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

北杜夫の文学と松本高校青春記

当館では、北の生涯とその多彩な文学作品、そして文学への道を宿命づけた松本高校での3年間に

ついて紹介します。改めて彼の作品を手にとっていただくきっかけになれば幸いです。

展示① 北杜夫の生涯と文学

北作品といえばユーモアあふれる「どくとるマンボウ」シリーズ？あるいはテレビドラマ化された大河小説で代表作の『楡家の人びと』？それとも詩情あふれる『幽霊』がお好みですか？お子様と、子どもの心を忘れない大人の方には『船乗りクブクブの冒険』『さびしい王様』などもおすすめです。驚くほど多彩ですね。

この展示では、国民的歌人で青山脳病院院長である斎藤茂吉の息子として生まれた北が、どのように人気作家となり、どんな作品を残したのかを、多くの自筆原稿や創作ノートなどにより紹介します。親交のあった三島由紀夫が寄せた『楡家の人びと』推薦文や、スランプになるたび北が読み返したと

いうハガキも見どころです。

また、中年期以降に発症した躁うつ病で長い間苦しみますが、「躁うつ病」を世に知らしめたことが功績の一つと言われています。躁うつ病の日々を物語るユニークな資料も紹介します。



画：北杜夫「マンボウ」(水彩)

展示② 北杜夫の松本高校青春記

「小心で人のかげに隠れるようにしていた」北は、旧制高校の特殊な雰囲気の中で性格までもがらりと変わったと振り返っています。旧制高校生らしくストームやコンパに情熱を傾け、ゲーテ、河合栄治郎などを手当たり次第に読み、父茂吉の作品に触れて作歌、詩作に取り組む日々。『どくとるマンボウ青春記』の文章を手がかりに、そんな北の青春を振り返ります。

克明な日記や読書録、松本高校の先輩で生涯の友となった辻邦生との往復書簡、豊富な学生時代の写真で、青年北杜夫を身近に感じられることでしょう。

(旧制高等学校記念館 学芸員／臼井邦彦)

山と自然博物館 Tel.0263-38-0012

北杜夫と昆虫

幼少から虫が大好きで、一時は昆虫学者をめざした北杜夫は、18歳の時に未発表「昆虫記」ノートを書き綴り、34歳には『どくとるマンボウ昆虫記』を発表しました。特に後者は、ユーモアだけでなく学術的にも優れ、昆虫大好き人間のバイブルとして多くの虫屋を輩出する原動力となった名著です。

山と自然博物館での「北杜夫と昆虫」展は、北と昆虫の関わりを中心に、昆虫採集や収集の足跡をたどり、文学作品と標本を合わせて紹介する展示を行います。

最初のコーナーは、虫を採りたくて入学した松本高校時代に、本人が採集した標本の数々を展示します。愛用した昆虫採集用具一式も展示します。

次に、大人子どもを問わず愛読された『どくとるマンボウ昆虫記』本文からの抜粋と、文中に登場する昆虫種の標本、全20章分20箱を展示します。

その他の著作『幽霊』『谿間にて』『母の影』『どくとるマンボウ航海記』『同 医局記』『同 青春記』からも同様に展示します。

そして、本人の死後に見つかった未発表原稿「昆虫記 新巻1」の掲載種リストをもとに、戦禍で失われた昆虫標本箱の再現を初めて試み、ここに展示します。

南米など取材旅行先での本人が採集した昆虫の展示が、次のコーナーにあります。北は特にコガネムシ類を好み、晩年になってもその収集熱は一向に衰えることを知りませんでした。下の写真にみる彼の表情は、永遠の恋人に会ったかのような満面の笑みを浮かべています。このコーナーでは、北と親交が深かった諸氏から提供された「黄金虫標本」の数々を展示します。



提供された黄金虫標本を見入る北杜夫

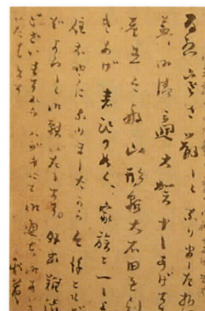
次に、北に献名された新種コガネムシ「マンボウビロウドコガネ」の展示や日本昆虫学会松本大会での北杜夫の晴れ姿を紹介します。

締めくくりとして、特に親交が深かった諸氏から北への熱い思いを込めた寄稿文と、北が漫画の主人公として天国で永遠に家族や虫に囲まれている姿を紹介します。

(山と自然博物館 館長／塩原明彦)

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

斎藤茂吉と窪田空穂 一ふたりの交流と北杜夫の短歌—



茂吉の空穂宛はがき
昭和22年12月7日

松本市和田出身の歌人・窪田空穂は、北杜夫の父・斎藤茂吉と同時代を生き、交友関係を持続していました。ふたりは我が国を代表する歌人、国文学研究者として活躍し、ともに日本芸術院会員でもありました。今回の窪田空穂記念館の展示では、斎藤茂吉の空穂宛書簡を中心に、ふたりの交流の一端を紹介します。書簡はいずれも短い文面ですが、5歳年上の空穂に対して茂吉の言葉遣いは常に丁寧です。上記の書簡は、戦争中、山形県大石田に疎開していた茂吉が、戦後帰京した時の挨拶状です。また、芸術院会員に空穂を強く推したのも茂吉でした。一方、空穂は、雑誌等で茂吉の作品を取り上げては賞賛しており、互いに信頼と敬意を抱いていた間柄が偲ばれます。

今回の展示では、歌の対象・題材別に茂吉と空穂の作品も紹介します。歌論も歌風も異なるふたりですが、その作品は、日本古来の伝統詩の魅力を私たちに伝えています。

昆虫採集に熱中していた茂吉の次男・北が父の短歌に触発されて作歌を始めたのは、松本高校在学中でした。やがて関心は詩や小説に傾き、作歌活動は、わずか3年で終わってしまいました。しかし、後年、青春時代に松本で詠まれた短歌が、歌集『寂光』としてまとめられ、世に知られることとなりました。また、自作短歌を認めた自筆色紙も遺されており、今回紹介できることになりました。

人の世のこの寂しさを知りそめて幾夜か経たる降る雨の音

北 杜夫

ここにしてゆらげる心すみゆけりおのづからなる山の水の音

北 杜夫

希望、孤独、苦悩など北の青春の思いが伝わってくる短歌や檜ヶ岳や梓川など松本の自然を詠ったすぐれた短歌をぜひご鑑賞ください。多くの皆様のご来館をお待ちしております。

(窪田空穂記念館 館長／小松源一郎)

松本まるごと博物館連携企画展「北杜夫と松本」

7月13日㊦～9月16日㊦㊧

【会 場】旧制高等学校記念館／山と自然博物館／窪田空穂記念館

【観覧料】各館通常観覧料

※会期中、開催3館のいずれかの観覧券半券提示により、2・3館目の観覧料をそれぞれ団体割引といたします。

松本まると博物館連携企画 まつもとの七夕 2013



中町の七夕人形飾り

キラキラと照りつける日差しの中、中心市街地の通りを巡ると見かけるこの七夕人形。今ではすっかり松本の夏の風物詩としてまちなかを彩り、涼やかな印象としばしの安らぎを与えてくれます。「松本の七夕」の札がかかったこの人形は、「まちなか展示」として私たち松本市立博物館と市街地の商店街の皆さん等との協働で飾り付けたものです。

もともと松本地方の七夕は、月遅れの8月7日に行うことが一般的でした。笹飾りはもとより、軒先に七夕人形を飾り、季節の野菜とともに「ほうとう」と呼ぶ食べ物を供えて祝います。

松本市立博物館には昭和30年に国重要有形民俗文化財に指定された七夕人形コレクション45点が収蔵されています。平成17年には、指定50周年の特別展として文化庁の芸術拠点形成事業の助成を受けて「七夕と人形」を開催し、改めて七夕人形が注目されました。以降、七夕人形のある風景を再現しようと、博物館周辺の商店街等と呼びかけ、店頭紙製の七夕人形を飾っていただきます。また、大名町通りの街灯に、笹飾りとともに七夕人形型パネルを博物館職員が飾ります。

この「まちなか展示」は、今年で9年目を迎えます。初期には博物館職員が七夕人形を飾ってくれる場所を探し歩いていましたが、今では私たちの活動に理解をいただいて、多くの方の協力を得ています。うれしいことに、私たちの活動が呼び水となって自主的に自宅にある人形を飾るなど、特色ある通りづくりに取り組む商店街も出ています。また、松本を訪れる方への風情あるおもてなしとして、文化資源としても注目が集まっています。

博物館の活動が、季節を愛で、そして松本の風習・文化に親しむ機会となることを願い、今年も七夕人形でまちなかの賑わいを創出します。

(市立博物館 学芸員／長尾小百合)

まつもとの七夕2013 まちなか展示

7月20日(土)～8月18日(日)

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

七夕人形づくり講座

8月7日(水)

簡単に作れる「七夕人形作りキット」を使って七夕人形を制作します。

ほうとうサービス

8月7日(水)

松本では七夕に小豆あんをあえたほうとうを食べる風習があります。博物館ではボランティア エムの会の協力により、午前10時から来館者に無料でふるまいます。※ほうとうがなくなり次第終了

七夕巡回バス「カータリ号」

8月10日(土)

菅江真澄の「委寧の中路」で紹介されている塩尻市本洗馬・釜井庵と、七夕の展示をしている松本市内の博物館施設を巡ります。

※申込みは7月29日より

松本市はかり資料館、重文馬場家住宅でも同一期間中に七夕人形展、ほうとうサービス等を開催します。

重文馬場家住宅 Tel.0263-85-5070

古民家で楽しむ七夕さま

7月6日(土)～8月18日(日)

七夕人形づくり講座

7月21日(日)・28日(日)

ほうとうサービス

8月7日(水)

※ほうとうがなくなり次第終了

はかり資料館 Tel.0263-36-1191

七夕人形展

7月6日(土)～8月18日(日)

ほうとうサービス

8月7日(水)

※ほうとうがなくなり次第終了



まちなか展示「緑町」

夏期特別展「源寿院の古時計」

時計博物館では7月27日(土)から9月1日(日)まで、夏期特別展「源寿院の古時計」を開催します。平成24年に東京都葛飾区の源寿院の住職・秋田快定氏から松本市に寄贈された約70点の古時計コレクションから代表的なものを紹介します。

特に目を引くのは、歯車などの内部の機構が見える置時計やローリングボールクロックです。古時計では内部構造を見せることは少なく、歯車がむき出しになっている時計



ローリングボールクロック

は珍しいものです。また、これらの時計が備えている鎖引装置は、ゼンマイの力を一定にする役割を担っており、より正確な時を刻むことができます。

このほかに、綺麗な音色の掛時計や美しい七宝焼きの時計など見応えのある時計を約40点ほど展示します。

(時計博物館 学芸員/山下太一)



スケルトンクロック

夏期特別展「源寿院の古時計」

7月27日(土)～9月1日(日) [会場]時計博物館 [観覧料]通常観覧料

ガイドコーナー はんでんぼく

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

七夕人形づくり講座

簡単に七夕人形が製作できるキットを使って七夕人形を手作りしてみませんか。

日時 7月21日(日)・28日(日)
午後1時30分～3時30分
会場 馬場家住宅
定員 各6人
参加料 1,000円及び通常観覧料(高校生以上300円)
申込み 7月17日(水)までに馬場家住宅へ

はた織り体験教室(裂布・ボロ織り)

日時 7月27日(土)
[午前の部]午前10時～正午
[午後の部]午後1時～3時
会場 馬場家住宅
対象 大人
定員 12人
参加料 1,000円
指導 染織の会
申込み 7月24日(水)までに馬場家住宅へ

お茶席の会

本棟造りの古民家でゆったりとしたひとときを過ごしませんか。

日時 7月28日(日) 午前10時～正午
会場 馬場家住宅
参加料 無料(通常観覧料のみ)
指導 松風の会(表千家)

四賀化石館から ☎0263-64-3900

「化石教室」化石採集資料の展示

化石教室で採集できる化石資料をロビーに展示しました。四賀地区の身近な化石を手にとりて見る事ができます。

会期 6月1日(土)～11月30日(土)
会場 四賀化石館
観覧料 通常観覧料(大人300円、中学生以下150円)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

子ども短歌教室

日時 7月30日(火) 午前10時10分～正午
会場 窪田空穂生家
対象 中学生以下の児童・生徒及び家族
参加料 無料
講師 小柳素子氏
申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

囲碁教室

日時 8月1日(木)～8月3日(土)[3日間]
午前10時～正午
会場 窪田空穂生家
対象 小中学生
参加料 無料
講師 囲碁普及ボランティアグループ
申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

将棋教室

日時 8月4日(日) 午後1時30分～3時30分
会場 窪田空穂生家
対象 小中学生
参加料 無料
講師 地元指導者
申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

おりがみ教室

日時 8月7日(水)・8月9日(金)
午前10時～正午
会場 窪田空穂生家
対象 幼・保・小学生
参加料 無料
申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「松本民芸館 名品展」

会期 7月17日(水)～10月27日(日)
会場 松本民芸館
観覧料 通常観覧料
(大人300円、中学生以下無料)

「子ども民芸教室」親子でみずず細工を作ろう

コースター作りをお子さんといっしょに楽しみませんか。

日時 7月28日(日) 午前10時～午後3時
会場 松本民芸館
定員 10組(子供と保護者での参加)
参加料 1,500円(材料費)
講師 みずず細工復活プロジェクト
申込み 電話で松本民芸館へ

松本市歴史の里から ☎0263-47-4515

高機で裂き織り体験

日時 7月18日(木)
[午前の部]午前10時～正午
[午後の部]午後1時～3時
会場 松本市歴史の里
講師 歴史の里「絹織り保存会」
参加料 1,000円

藍のたたみ絞り体験

日時 7月31日(水) 午前9時30分～正午
会場 松本市歴史の里
参加料 500円
講師 歴史の里「絹織り保存会」
申込み 開催前日までに電話で松本市歴史の里へ



戦争と平和展 特攻兵が飛び立つとき—松本から知覧へ—

7月6日(土)～8月25日(日) 松本市立博物館

特別講演会

特攻隊員の心に学ぶ ～命の尊さと親子の絆～

日 時 7月27日(土)
午前10時30分～正午
会 場 松本市立博物館 2階講堂
定 員 80名
参加料 200円(通常観覧料が必要)
講 師 川床剛士氏



語り部の講話
(提供: 知覧特攻平和会館)

(知覧特攻平和会館参事 語り部)
申込み 7月10日(水)から電話受付 ☎0263-32-0133

松本まるごと博物館連携事業

戦時下の学校 —子ども・大人・地域—

会 期 8月3日(土)～9月8日(日)
会 場 重要文化財旧開智学校校舎 1階特別展示室
☎0263-32-5725

松本まるごと博物館連携事業

東京裁判と巣鴨プリズン

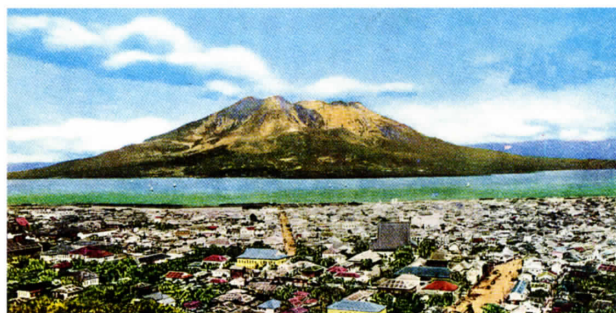
会 期 8月3日(土)～9月8日(日)
会 場 松本市歴史の里 旧松本少年刑務所独居舎
☎0263-47-4515

松本市・鹿児島市都市間交流事業

鹿児島展 薩摩・鹿児島と松本を結ぶもの

昨年9月16日に松本市と鹿児島市が文化・観光交流協定を締結したことを記念し、鹿児島の歴史や文化、両市にゆかりの人物などを、鹿児島市内の博物館と松本市立博物館が所蔵する資料で紹介します。

会 期 7月6日(土)～8月25日(日)
会 場 2階特別展示室
観覧料 通常観覧料(大人200円、中学生以下100円)



鹿児島市と櫻島

あとがき

重要文化財馬場家住宅には「旅のつれづれ」感想ノートがあり、開館以来10冊目となります。「ここに座っていると時間が止まっているようです」「昔、なつかしい実家を思い出しました」「ふくろうかな、鳴き声がいい感じ」「好きだった女性に会いたくなった」等々。博物館はいろんな人の思いを乗せて旅行ができるタイム・マシンかもしれません。(H. O)

松本まるごと博物館連携企画展 北杜夫と松本

7月13日(土)～9月16日(日)

旧制高等学校記念館 北杜夫の文学と松本高校青春記

山と自然博物館 北杜夫と昆虫

窪田空穂記念館

斎藤茂吉と窪田空穂 —ふたりの交流と北杜夫の短歌—

記念講演会

どくともマンボウ家の素顔 —ユーモアを大切にイキイキと生きる—

日 時 7月21日(日) 午後1時30分～
※終了後サイン会を予定

会 場 あがたの森文化会館2-8教室
定 員 80名



※7月9日(火)午前9時から電話受付、先着順

参加料 300円
講 師 斎藤由香氏(北杜夫長女・エッセイスト)
申込み 旧制高等学校記念館へ(☎0263-35-6226)

昆虫講演会

『どくともマンボウ昆虫展』について」と語り

日 時 7月27日(土) 午後1時30分～

会 場 山と自然博物館

定 員 30名

参加料 300円

講 師 新部公亮氏(日本昆虫協会理事)
伊藤しのぶ氏(語り手)

申込み 山と自然博物館へ(☎0263-38-0012)

文学講演会

編集者から見た北杜夫さん

日 時 8月3日(土) 午後1時30分～

会 場 あがたの森文化会館2-8教室

定 員 60名

参加料 300円

講 師 栗原正哉氏(元新潮社編集者)

申込み 旧制高等学校記念館へ(☎0263-35-6226)

夏の自然観察会

日 時 8月10日(土) 午前8時30分～午後4時

場 所 美ヶ原(市バスで往復)

定 員 28名

参加料 大人300円、小人100円(保険代含む)

講 師 平沢伴明氏(信州甲虫研究会会長)

申込み 山と自然博物館へ(☎0263-38-0012)

あなたと博物館 No.187

発行年月日/平成25年7月1日 編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL: <http://www.matsu-haku.com>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp

印刷 川越印刷株式会社